

平成30年度全国学力・学習状況調査結果からみる 学力の傾向と対策について

阿南市教育委員会

この資料は、平成30年度全国学力・学習状況調査結果の分析をもとに、阿南市の子どもたちの学力の傾向をまとめたものです。阿南市と全国の平均正答率を比較することによって、特に明らかであったものについて説明しています。

調査内容

- 1 小学校（6年生が対象）
 - (1) 学力調査
 - ・国語（ Aは「知識・技能」 Bは「活用」 ）
 - ・算数（ Aは「知識・技能」 Bは「活用」 ）
 - ・理科
 - (2) 質問紙調査 ・学習意欲, 学習方法, 学習環境など学習に係る態度全般

- 2 中学校（3年生が対象）
 - (1) 学力調査
 - ・国語（ Aは「知識・技能」 Bは「活用」 ）
 - ・数学（ Aは「知識・技能」 Bは「活用」 ）
 - ・理科
 - (2) 質問紙調査 ・学習意欲, 学習方法, 学習環境など学習に係る態度全般

■1 小学校について

(1) 全体的な傾向

- 1 国語では、国語Aにおいては、全国平均とほぼ同じですが、国語Bにおいては全国平均を上回っています。
- 2 算数では、算数A・Bとも、全国平均とほぼ同じです。
- 3 理科では、全国平均とほぼ同じです。
- 4 回答欄に記入がない無回答率は、学力調査・質問紙調査とも、全国平均を下回っており、問題に対して最後まであきらめずに頑張っており、取り組もうとする傾向がみられます。

(2) 学力調査

- 国語では、「話し相手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べる」や、「文章全体の構成の効果を考える」など多くの観点で全国平均より上回っています。特に、文を正しく書く設問など、よい結果になっています。しかし、学年別漢字配当表に示されている漢字を、文の中で正しく使う設問では、全国平均をやや下回っており、「書く力」の育成に取り組むことが必要です。

- 算数では、「図形」、「数量関係」が、全国平均を上回っています。特に、異なる2つの数量の比べ方や、角の大きさを理解することに定着が見られますが、割り算を使って数量を求めることや、数量の関係を数直線に表すこと、直径の長さとお円の関係、百分率を求めることなどに課題が見られます。
- 理科では、知識に関する問題で、科学的な言葉や概念を理解しているなど、概ね定着が見られます。しかし、活用に関する問題では、実験結果を基に分析・考察し、その内容を記述したり、実験結果から分かることを基に、改善内容を記述したりする力には課題が見られます。

(3) 質問紙調査

- 「自分には良いところがある」「夢や目標を持っている」児童の割合が全国平均を上回っています。これは、自尊心や達成感を高めるための取組を学校全体で積み上げてきた効果の表れであると考えます。また、「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う」の項目についても全国平均を上回っており、道徳の授業等を通じた、各校での人権意識の育成の成果だと考えられます。
- 「毎日、朝食を食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝起きしている」などの基本的な生活習慣、その他数多くの項目で強い肯定的回答がみられました。基本的な生活習慣の定着に向けた、保護者と連携した取り組みの成果だと考えられます。また、「地域の行事に参加している」「人の役に立つ人間になりたい」などの地域・社会との関わりも、全国平均を大きく上回っています。
- 算数の勉強が好きで、授業の内容がよく分かると考えている児童は、全国平均を上回っています。それに反して、理科の勉強に対して大切さは認識はしていても、苦手だと考えている児童が全国平均を上回っており、「主体的・対話的で深い学び」による授業改善に更に取り組む必要があります。

■2 中学校について

(1) 全体的な傾向

- 1 国語では、国語Aにおいては、全国平均とほぼ同じですが、国語Bにおいては、全国平均をやや下回っています。
- 2 数学では、数学Aにおいては、全国平均を上回っていますが、数学Bにおいては全国平均とほぼ同じです。
- 3 理科では、全国平均とほぼ同じです。
- 4 回答欄に記入がない無回答率は、学力調査では、国語・数学とも全国平均をやや上回っており、質問紙調査では、全国平均とほぼ同じです。問題に対してあきらめずに頑張ろうとする態度を育てることが必要です。

(2) 学力調査

- 国語では、漢字の読み書きや語句を文脈の中で適切に使うこと、行書の書き方など、言語についての基本的な知識・理解・技能について定着が見られます。しかし、目的に応じて文章を読み取り内容を整理して書いたり、的確に伝わるように、あらすじを捉えて書くことに課題が見られます。
- 数学では、各領域における数学的な技能や知識・理解・見方・考え方について、概ね定着が見られており、丁寧な指導の成果であると考えています。しかし、与えられた情報から必要な情報を選択して、百分率を求める式に表したり、問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明したりする力については課題が見られました。問われているのが何なのかを、最後まであきらめず読み取り、無解答率の低下につなげていく必要があります。
- 理科では、知識、活用に関する問題ともに、知識・技能及びそれらを活用して課題を解決するために必要な力については、概ね定着がみられています。しかし、観察・実験の結果などの根拠に基づいて自分の考えや他者の考えを検討して改善したり、探究の過程を振り返り新たな疑問をもち、さらに考えを深めたりすることに課題が見られました。

(3) 質問紙調査

- 小学校と同じく「夢や目標を持っている」生徒の割合が全国平均を上回っています。これは、自尊感情や達成感を高めるための取組を学校全体で積み上げてきた効果の表れであると考えます。また、「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う」の項目についても全国平均を上回っており、道徳の授業等を通じた、各校での人権意識の育成の成果だと考えられます。
- 「毎日、朝食を食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝起きしている」などの基本的な生活習慣の項目で肯定的回答がみられました。ただ、「学校の規則を守っていますか」の項目は、全国平均を下回っており、今後も家庭と連携した取り組みが必要です。
- 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあると回答した生徒の割合は、全国平均とほぼ同じです。しかし、地域の行事に参加したり、ボランティア活動に参加したりする生徒の割合は、全国平均を下回っています。生徒が地域社会に貢献できるような機会や場を設定することが必要です。
- 数学の勉強は大切で、授業の内容がよく分かると考えている生徒は、全国平均を上回っています。また、理科の勉強が大切で、社会に出たときに役立つと考えている生徒も全国平均を上回っています。しかし、自分の考えや考察を周りのものに説明したり、話し合い活動が苦手だと考えている生徒は、全国平均を上回っています。今後も「言語能力」の育成に取り組む必要があります。

今後の対策について

- 1 各校ごとに調査結果を分析し、保護者にその内容をお知らせするとともに、明日からの授業の改善に各校が創意工夫をして取り組みます。
- 2 市の指定研究事業「学力向上（H30・31指定 福井小学校 那賀川中学校）」や県の指定研究事業「授業改善」推進校事業（H30 大野・福井小 那賀川中）」等の研究成果を市内の各学校に広報・普及し、「主体的・対話的で深い学び」による授業改善を実施し、教師力の資質向上に取り組むことにより、市全体の学力向上に取り組めます。
- 3 基本的な生活習慣や読書習慣の育成、家庭学習の充実等に向けて、各校のHPや学校だより等での情報提供に取り組めます。